

## 第3次芦屋市地域福祉計画評価シート 団体

団体名	生活協同組合コープこうべ（第2地区）		
所属人数	195,910人（2018年12月現在 男女の比率不明）		
平均年齢	60代～70代		
任期の有無	有（年）	・	無
役職の有無	有（任期：役職による）	・	無

## 1 地域づくりにつながる活動を始めたきっかけ

目的：生活協同組合（以下、「組合」という。）は、協同互助の精神に基づき、公共の福祉を増進するとともに、健全なる社会の確立に貢献することを目的とした地域活動を行う団体であり、阪神・淡路大震災をきっかけにボランティア活動の幅は広がった。

課題：活動が多様化しているため、焦点をどこに絞るかが難しい。また、活動の担い手不足、高齢化、固定化

## 2 団体の地域活動（コープサークル、コープくらぶ等）は誰でも参加できるか ▶▶▶▶ できる

きっかけ：機関紙きょうどうやインターネット等の広報媒体の案内を見て参加される方や知人からの口コミ

## 3 新たに始めた活動はあるか ▶▶▶▶ ある

## 【余剰食品の地域内循環】

目的：組織課題である食品ロス問題を解決と地域の福祉活動に貢献するため。

内容：地域のコミュニティ食堂等の活動につなげる動きやフードドライブを実施

動機：地域の組合員からの食品廃棄について対応してほしいとの提案、食品を捨てるのではなく、知育で循環させていくという考えによって、地域の福祉活動やフードバンク関西に提供されることになった。

## 【災害時の栄養価やアレルギーに対して配慮したレシピづくり】

## 【学生とコラボした新しいパンづくり】

## 4 活動の担い手は足りているか ▶▶▶▶ いいえ

理由：「活動」よりも「仕事」を選ぶ人が増えていて、既存の活動のメンバーも固定化している。また、組織として魅力ある発信・提案が不足している。

課題：地域で必要とされている活動がなくなるケースがあること。

方法：①グループ作りや活動を行う上での障壁（ルール）の変更の準備

②活動の見える化や若い方に対する広報手段の確立

③活動参加に対するインセンティブ、有償ボランティアも含めて検討

## 5 外部（役員以外の者を含む）からの意見を団体の活動等に取り入れているか ▶▶▶▶ はい

活動者とのコミュニケーションは不可欠のため、取り入れながら成長

6 他の団体と活動することはあるか ▶▶▶ ある

- ・障害者就業支援事業所に声をかけ、店頭での販売機会の提供
- ・市「芦屋777プロジェクト」や「こえる場」に協力依頼があり、イベントを共催で実施
- ・地域の学校とともに新しい商品づくり
- ・中間支援NPOとの共同事業(フォーラム・学習会)の実施
- ・コープの登録団体だけでなく、非営利かつ公益性のある団体(山の子会)に対して、店舗での管理日数切れの食材を提供

7 所属の団体（活動も含め）のPRや感想

- ・次世代につなぐためにも、学校関係との連携を模索し続けたい。
- ・活動の担い手不足解消のためにも、地域で活動中のNPO等のグループとの情報交換は必須
- ・今後は、店舗を物販だけでなく、くらしの拠点で暮らしの中の困りごとなどのニーズを受ける場所を設け、地域へつなぐような仕組みづくりをしていきたい。